

(第44号) ***分館の紹介***

分館は、昭和40年、歯学部・教養部の開設時に、教養部校舎内(本町キャンパス)に誕生しました。本館が医学・歯学の専門書が中心であるのに対し、学生を対象とした各種参考図書と教養書が多く取り揃えられ、中でも法学、哲学、心理分野の図書は、医・歯学進学課程の図書館としては他に類を見ない充実した蔵書となっていました。教養部構内には、「ヒポクラテスの木」と呼ばれる西洋医学の父ヒポクラテスの故郷に残るプラタナス(和名:すずかけの木)の直系株である木や、教養部1回生の寄贈による「いちいの木」も植樹され、緑の多いキャンパスは放課後も部活の学生で賑わっていました。図書館の利用者も、主に新入生と教養部の教職員であったため、アットホームな雰囲気が漂っていました。

誕生から42年後の平成19年、薬学部の開設に伴い、教養部も矢巾キャンパスに移転となり、分館は新たに薬学図書館としての機能も果たすことになりました。蔵書は本町キャンパスからの移設分と新規分を合わせて47,000冊でスタートしました。館内は、壁面半分が大きな窓に囲まれ、天井も高く、大変明るい開放的な空間です。食堂棟の2階に設置されているため、利用者も気軽に立ち寄れる雰囲気になっています。初年度は、医・歯・薬学部の1年生約340名でスタートしましたが、毎年、薬学部1学年160名が増えていき、3年目となる現在は、キャンパス内もだいぶ賑やかになり、蔵書も55,000冊まで増えました。薬用植物園の薬草も、当初は皆若葉で、いつになったら大きく育つのが待ち遠しい思いでしたが、今では区画からはみ出さんばかりに成長し、可憐な花を付け、それぞれ独特の香りを醸し出しています。また、矢巾キャンパス緑化計画事業により、本町キャンパスのヒポクラテスの木といちいの木も移植され、広大なキャンパス内に緑も増えてきました。

分館業務の特徴は、図書の受入や相互貸借を独立して行っているほか、教育支援と展示企画に力を入れていることも挙げられます。一例として、授業で使う資料や参考書は、指定図書・リザーブ制度を設けて貸出期間に制限をかけ、より多くの学生が公平に利用できるよう工夫しています。また、特別展示では本学所蔵の貴重書を紹介し、企画展示では豊富な図書資料を使って様々なテーマでまとめた資料をカウンター脇の一角で紹介しています。現在までの展示内容は、図書館ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

平成19年6月から、一般の方への開放も行っています。市内の内丸キャンパスから車で30分の広大なキャンパスへ、足を運んでみませんか。

図書館トリビア

昭和30年代、岩手医大の新入生は静岡県で学生生活をスタートさせました。医学専門教育を受けるには、進学課程(2年)修了が条件でしたが、当時、本学は内容整備に追われていて、進学課程を設置運営する余力がありませんでした。そこで、地元の国立大学を始めとして一般教養教育を引き受けてくれる大学を探した結果、『日本大学三島教養部』が委託先に決まったからです。盛岡に教養部が開設されるまでの11年間、三島で学んでから盛岡の専門課程に進学した学生は、700名にも達します。当時の卒業アルバムには、三島校舎はもちろん、富士山登山の写真なども掲載されており興味深いものがあります。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 circ2303@lib.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館